

(つくだに・煮豆・そうざい)

全調食協報

令和8年1月1日発行

No.183号

発行所

全国調理食品工業協同組合

〒110-0015

東京都台東区東上野3-1-10

井門東上野ビル3F

TEL 03-6807-7576

FAX 03-3843-3611

<http://www.zenchoshoku.or.jp/info/>

新年号



目次

- | | | | |
|--------------------------|---|------------------------|----|
| ○2026年 新春所感 | 2 | ○「佃煮・煮豆」キャンペーン開催 | 7 |
| ○地方銀行フードセレクション2025 | 4 | ○全調食ブロック活動報告 | 11 |
| ○「佃煮の日」キャンペーントピックス | 5 | | |

2026年 新春所感



全国調理食品工業協同組合
理事長 岩田 功

令和8年の新春を迎え、年頭にあたり謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

平素は関係諸官公庁はじめ業界関係各位には格別のご高配を賜り厚くお礼を申し上げます。

さて、昨年10月に高市新内閣が発足しました。高支持率を維持する中、物価高対策としてガソリン暫定税率の廃止、地方交付金の計上(食料品高騰対策への使用を促す)、電気・ガス料金の補助、子育て世帯への支援拡充など、経済対策への取組みが進められているところですが、国民がその対策がしっかり実感できるような効果が表れることが重要だと思います。

昨年も外国人観光客は増加傾向になっており、各観光地での問題発生や文化のちがいによるトラブルなど多数発生しており、改善するべきところは見直しをしていくことも必要であると考えます。大きなビジネスチャンスであることは確かですので、外国人観光客の受入れ体制もしっかり整備することも重要であると思います。

そのような中、我々の調理食品業界を取り巻く環境は厳しい状況が続いており、原料価格の高騰は続き、商品によっては原料が不足して製造ができない状況も追い打ちをかけています。

輸入原料については、確保ができたとしても長引く円安から、原料価格が高くて結局は商品化が難しくなるケースも多々あるようです。

値上げが追い付いておらず、適正な商品の価格に、今後も粘り強く交渉していくことが重要なポイントであります。

次に組合事業については、昨年2月に仙台で理事会を開催、5月には組合創立70周年記念総会を名古屋で開催し、多くの組合員に参加していただきました。全国の5ブロック会では、海外視察研修会の実施、もしくは今年実施予定など活発な活動が行われる環境になってきました。今年2月には、若手後継者育成研修会を横浜(35名参加)で開催します。内容としましては、水産庁からご紹介いただいた国立研究開発法人水産技術研究所を訪問して、研究所内の視察と水産物の原料状況について、ご講演を予定しています。情報交換の場も設定して、今後の食品業界、組合運営を担っていく若手後継者の団結の輪を作ってもらおう一助になれば幸いです。

子ども食堂などへの商品無償配布、能登半島災害支援としての商品無償配布を、予定通り実施しています。組合員支援としましては、イベント出展料の一部補助を継続しており、販路拡大のためなどに、積極活用をしてもらいたいと思います。

引き続き時代の流れや社会変化などを注視しつつ、組合員各社の結束力を強化し、課題の解決に向け積極的に取り組んで参る所存でございます。

また、本年も各組合員への情報発信を行ない、情報の共有化および業界の活性化につながるように、組合としてできる支援にも引き続き取り組んでいきます。

最後になりましたが、本年も皆様の変わらぬご支援とご協力をお願い申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

「地方銀行フードセレクション2025」開催

全国の地方銀行とリッキービジネスソリューション㈱（澁谷耕一社長、東京都千代田区）は、地域性豊かな安全で美味しい優れた地域食品を扱う企業と食品バイヤーの商談会、「地方銀行フードセレクション2025」を11月13日（木）、14日（金）の2日間、東京ビッグサイトで開催した。

同商談会は、全国の食品に特化した商談会として2006年からスタートし、年々規模を拡大。今年で20回目となる。会場では個別商談会も実施され、多くの出展社とバイヤーが参加して商談を行った。

主催銀行は全国の地方銀行でその取引先1,080社が出展し、11,362人が来場した。

当組合からは、佐藤食品㈱、㈱舞昆のこうはら、㈱釣八、川原食品㈱、(有)荒木國一商店、カモ井食品工業㈱、丸虎食品工業㈱、㈱平松商品の8社が出展、各社とも厳選した自慢の商品を出展PRしました。



開催案内

写真提供／組合事務局

「佃煮の日」キャンペーン・トピックス

今年も各ブロックにおいて、佃煮のおいしさやヘルシーさをPRするキャンペーンが展開されました。

□東海・北陸ブロック会

6月29日の「佃煮の日」に合わせ、日本の伝統食品並びに地産地消としての「佃煮」の認知・継承を目的として、各地域各会員企業で小学校等に佃煮を配布し、佃煮の消費拡大キャンペーンを実施した。第二弾をご紹介します。

〈名古屋地区〉

名古屋地区では、カネハツ食品(株)（加藤英敏社長）が6月23日に道徳小学校、24日に白水小学校、25日に大磯小学校、27日に明治小学校、30日伝馬小学校へ訪問などして、佃煮（磯のうたげかつおぶき）1,656名分を、クリアファイルと共に無償提供しました。全校集会、全校放送、クラス単位、学年単位など先方の意向に合わせて、児童、教職員の皆様に向け佃煮の謂れ、製法、栄養について食育の観点での説明を行いながら、佃煮の日PR活動を実施しました。

〈知多地区〉

知多地区では、(株)浜幸（濱本宝弘社長）が6月16日に内海小学校、みさき小学校、豊浜小学校の児童、教職員447人に、生炊きえびの佃煮を無償配布した。また豊浜小学校の朝礼会では、濱本社長が全校生徒の前で佃煮の歴史や栄養について、資料を配布しながら説明を行い、佃煮の日PR活動を実施しました。

〈岐阜地区〉

岐阜地区では、大丸松下食品(株)（松下卯蔵社長）が6月13日に大垣日大高校、23日に興文小学校、26日に興文中学校、27日に大垣特別支援学校、かわなみ作業所に、給食献立の「米飯」の時に、生徒、教職員2,224人分の佃煮を無償提供しました。校内放送で佃煮の歴史や栄養について説明したり、感想文を書いてももらったり、学校ホームページに佃煮の日イベントを掲載してもらい、PR活動を実施しました。

〈静岡地区〉

静岡地区では、静岡県佃煮商工業協同組合（清水英訓理事長）が6月26日に焼津水産高校を訪問して、清水理事長から「佃煮の日」由来について資料配布して説明した。6月24日にはやいずとくさんプラザに商品を表示、小川港魚河岸食堂では、食事を注文された方にサンプル佃煮を提供してもらいました。今回は各種佃煮1,000個、クリアファイル850枚を各所に無償配布してPR活動をしました。

□近畿ブロック会

6月29日の「佃煮の日」に合わせ、日本の伝統食品並びに地産地消としての「佃煮」の認知・継承を目的として、滋賀県内の2か所で県特産佃煮の無償配布を行った。

近畿ブロック会（**阪田嘉仁会長**）は、地元の滋賀県水産加工協同組合（奥村龍男代表理事組合長）と連携し、滋賀県内2か所で「わかさぎ甘露煮」など県特産佃煮1,300品以上を無償配布した。11月9日には、大津市の道の駅・びわ湖大橋米プラザで「わかさぎ甘露煮」650品、11月13日には、彦根市の滋賀県立大学で「わかさぎ甘露煮」「小じゃこ」700品、佃煮の日のPRクリアファイルと合わせて配布した。阪田会長は、「滋賀は昔からびわ湖の湖魚を使った佃煮作りが行われてきた。無償配布を通じて地元の佃煮文化を次の世代につなげていきたい。」と述べた。



滋賀県立大学にて



米プラザにて

写真提供／㈱食経

「佃煮・煮豆」キャンペーン開催

□東日本ブロック会

「組合まつり」に出店

東京都中小企業団体中央会主催の「組合まつり」が、10月29日(水)、30日(木)の2日間、東京国際フォーラム(有楽町駅前)で開催した。

ブロック会からは遠忠食品(株)と(有)タカハシ食品の2社が出店しました。遠忠食品(株)は、江戸前原料にこだわった各種生のり佃煮、味付けザーサイ、ゆず胡椒など、(有)タカハシ食品は、北海道産原料にこだわったにしん甘露煮、ホタテ、昆布佃煮などを来場者に試食販売を行いながら、PR活動をしました。



組合まつり開会式



全調食ブース

写真提供/㈱食料新聞社

第2回「子ども食堂」無償配布実施

「佃煮・煮豆」のキャンペーンとして、11月6日(木)に東京都大田区「**社会福祉法人 大田区社会福祉協議会**」へ、組合員18社26商品の佃煮・煮豆商品2,268個(佃煮1,526個・煮豆742個)を無償提供した。また、当日は全国豆類食品消費啓発推進協議会(岩田功会長)を通じて、全国甘納豆組合連合会(塚本裕会長)より甘納豆300個、全国フライビーズ組合連合会(吉川猛理事長)より豆商品400個の寄贈も行われた。

「佃煮・煮豆」等は、大田区社会福祉協議会を通じて大田区内の食料を必要としている地域の子育て家庭やひとり親家庭などに提供された。

14時から贈呈式が行われ、菊池ブロック会長より近藤常務理事に「佃煮・煮豆」等が寄贈された。

菊池ブロック会長は「今回、佃煮や煮豆、豆商品を合わせて2, 268個寄贈させていただきます。物価高の中、少しでも皆さまのお役に立つことができれば寄贈させていただいた甲斐があります。なかなか若い世代に食べてもらう機会が少ないが、子どもたちに是非この機会に食べてもらいたい。」と挨拶した。

寄贈を受けた近藤常務理事は、「子ども食堂の取組は、大田区が初めてスタートし、現在区内には60を超える食堂が開設されている。物価高で運営していくことが厳しい状況の中で、皆様のご協力は大変ありがたい。」と述べた。出席者による情報交換ののち、記念撮影・贈呈式をとりおこなった。

寄贈商品（順不同）は、金ごまやわらかわかさぎ「佐藤食品(株)」、若さぎ唐揚げ、白魚の唐揚げ（ガーリック味）「(株)菅英佃煮本舗」、極旨メンマ「(株)ミクロ」、ピリ辛わかさぎ「小沼水産(株)」、ピーナツみそ「鳩屋(株)」、たらこわかめ「(株)仁徳」、あさり佃煮「青柳食品(株)」、国産梅のり佃煮、江戸前昆布佃煮「遠忠食品(株)」、さざめ昆布「(株)銀座新之助貝新」、金紋みそピー「(株)日出味噌醸造元」、くるみ小女子「勝木食品工業(株)」、白花豆、高原豆、富貴豆「佃屋食品工業(株)」、山菜あさり、たら子昆布「(株)高沢食品」、たらこ昆布、若さぎ佃煮「(株)オオタニ」、羽田大谷の若炊あさり「(株)大谷政吉商店」、十品目野菜豆、七品目ひじき豆「菊池食品工業(株)」、とろ火炊き昆布豆「(株)菊田商店」、わかさぎ甘露煮、北海道産にしん甘露煮「(有)タカハシ食品」



贈呈式記念撮影



寄贈商品

写真提供／(株)食経

□東海・北陸ブロック会

東海北陸ブロック会（平松ブロック会長）では、三河佃煮工業協同組合（小林利生代表理事）と青年部の豊橋佃志会（平松大地会長）主催による子ども食堂2か所への商品寄贈事業を11月16日に行った。5年目となる今回は、㈱濱金商店の「大葉ちりめん」・㈱平松食品の「お茶碗さん梅」を小袋280品、佃煮ごはんが入った「味ごはん弁当」を280食、弁当用新米を寄贈した。

当日は、贈呈式が執り行われ小林代表理事は、「毎回、組合員と考えたテーマに沿った佃煮を提供させていただいている。これまでおにぎり、節分ちらし寿司など企画してきたが、今回の味ごはん弁当も喜んでいただきよかった」と述べた。子ども食堂の南陽ニコニコ食堂の田邊代表は、「佃煮はとても喜ばれ感謝している。地元で育まれた食文化を学ぶきっかけになっている。」と述べられた。また、ハピネス食堂の山口代表は、「子どもたちが佃煮やお弁当を受け取る時に、笑顔を見せてくれたことが印象的だった。」と述べられた。



贈呈式（左から2番目が平松会長、次に小林代表理事、田邊代表、山口代表）



配布された佃煮やつくだ煮味ごはん弁当

写真提供／㈱食料新聞社

□近畿ブロック会

「子ども食堂」無償配布実施

大阪府調理食品協同組合（**廣川昌平理事長**）は、11月18日大阪府松原市社会福祉協議会に佃煮505品・煮豆1,265品を寄贈した。寄贈商品は、地区社会福祉委員会を通じて高齢者などの世帯に届けられた。贈呈式では、廣川理事長・梶原副理事長（**㈱天満屋 梶原靖久社長**）が出席をして協議会堤会長に目録を手渡した。廣川理事長は、「松原市社会福祉協議会への寄贈は3回目になるが、社会貢献と佃煮煮豆の需要拡大につながることを願っている。」と述べた。堤会長からは、お礼状と感謝の言葉を頂いた。寄贈商品（順不同）

のり佃煮・おかかごぼう・浅利しぐれ・牛肉ごぼう・ちりめん山椒・金時豆・黒豆・昆布豆・ひじき豆

寄贈組合員（順不同）

㈱廣川・㈱舞昆のこうはら・㈱天満屋・明治商品㈱・㈱山本



堤会長に目録を手渡す廣川理事長



贈呈した佃煮・煮豆

写真提供／㈱食経

全調食ブロック活動報告

□東日本ブロック会「米国カリフォルニア視察研修旅行」開催

東日本ブロック会は、10月15日から6日間の行程で、米国カリフォルニア視察研修旅行を実施した。当ブロック以外からも参加者を募り、総勢16名での視察となった。視察研修の目的は、組合員の取引先である正栄食品工業㈱の米国法人「正栄USA」のくるみ農園と加工工場を見学することと、地元スーパーマーケット等の視察による市場調査を行うことで、国際感覚を養うべく、国内外の景気状況を学ぶ機会とした。

初日の10月15日は、ロンバートストリート、ゴールデンゲートブリッジを見学したのちトレーダージョーンズ、セイフウェイのスーパーマーケット2か所を視察した。米国内での物価高を痛感し、日本国内のみならず全世界的な景気状況を感じとった。その後、本日の宿泊先であるサクラメントダウンタウンに移動し、古きアメリカの街並みを散策し、地元でも人気のあるレストランで夕食を済ませた後、ホテルに戻りその日を終了した。

二日目の10月16日は、正栄USAを訪問。天候にも恵まれ、充実した工場視察となった。まず、くるみ農園では、専用の作業車を使い木の幹を揺らしくるみを落とし、収穫したくるみを洗浄し一定基準の水分量になるまで乾燥させ工場へ搬出する。搬出されたくるみは、殻割りされた後、大きさや品質ごとに分類され製品として箱詰めされる。工場ではオートメーション化が進んでおり、ほとんど全ての工程で自動化による作業となっているが、最終チェックでは、人による目視で品質を確認している。収穫から製品化までの一連の工程を見学でき有意義な視察となった。

三日目の10月17日は、カリフォルニア最高峰のワイナリーを視察した。「Kenzo Estate」「Chandon」「Sterling」の3か所を訪れ、それぞれ特徴を活かしたコンセプトによる来場顧客のターゲットングを行っていることに興味がひかれた。ワインの奥深さを体験できたことも見地を広める機会となった。視察後は、ナパバレーから宿泊先サンフランシスコに移動し、ここでも地元人気レストランで夕食を済ませたのち、各自フリーで市内観光を楽しんだ。

四日目滞在最終日10月18日は、Waymo（自動運転タクシー）に乗車し、アルカトラズ島ツアーフェリー乗り場まで移動した。専用アプリで乗車予約し乗車場所で待っていると数分後にタクシーが到着。乗車すると本当に運転手はおらず、ハンドルが回りスムーズに走り出した時は、映画の一場面のような感覚に見舞われた。信号はもちろんの事、対向車や車道を横切る人も感知し幅寄せや減速も充分に行われ、不安なく目的地まで乗車することができた。まるで一種のアトラク

ションに乗ってるような感覚に感動すら思えた。アルカトラズ島見学は、専用のポータブルガイドを聞きながら、約2時間程度、その歴史に感銘を受けた。

翌10月19日は、名残惜しい気持ちを抑えながらホテルをあとにし、一路サンフランシスコ国際空港へと向かった。出国までの時間は、それぞれ買い物やラウンジで思い出話に花を咲かせるなどゆったりとした時間を過ごした。滞在期間中は天候にも恵まれ清々しい気持ちで全日程を終えることが出来た。全員怪我などもなく視察研修旅行を終えることができ、無事に羽田空港に降り立った。



くろみ農園



正栄USA集合写真

写真提供／組合事務局

□東海北陸ブロック会「秋季研修」開催

東海北陸ブロック会は、10月8日から9日一泊二日の行程で、静岡県にて秋季研修会を実施した。研修会には19名が出席し、宿泊先の掛川市「葛城北の丸」にて年末商戦の情報交換会を行った。初日は、名古屋駅西口から専用バスで浜松市へ移動し、うなぎ料理「浜乃木」で昼食をとった後、「遠江國一宮 小國神社」を参拝した。その後、情報交換会を行った「葛城北の丸」に移動した。

情報交換会は、事務局桜井氏の司会により、平松ブロック会長が挨拶。「今回の研修会場は、東海エリアのメンバーにとっては馴染みの場所で開催させていただいた。本日の情報交換会をこれからの発展の糧にしてほしい」と述べた。

続いて、顧問理事を務める全調食岩田理事長は、「皆さまのかげで全調食は順調に事業を進めることができている。来年度も新しい事業を行う予定で、皆さまの役立つ事業を行っていきたい。」と述べた。

研修会では、まず加藤副会長よりおせち商戦の動向や原料事情について発表があった。「今年の商戦では、丹波黒豆の不作の影響が懸念され、重箱詰めおせちがダウントレンド4年目を向かえネット販売へのシフトが顕著になっている。単品商品においても、わかさぎなどの串ものが減り、黒豆・栗きんとん等の主力商品の集約が進んだ。また昨今の円安による輸入原料への影響が危惧される。」と述べた。

その後、平松会長が進行役を務め、出席者の活動報告が行われた。出席者からは、串ものを今年からやめる。・原料高騰、人材確保も厳しく増産もできない。・通常商品を中心に販売強化を図っていく。・おせちは以前に比べ高価格帯になっており、消費者が価格にシビアで苦戦している。・冷凍おせちは8月から製造に取りかかるため、仕事の平準化が図れる等発表があった。また、加藤副会長より、全調食の令和7年度新事業である能登半島災害支援物資等提供の実施報告がなされた。

懇親会では、平松ブロック会長の開会挨拶に続き、開催県である静岡県を代表して村松理事の乾杯挨拶により開宴。活発な情報交換会が行われ、同じく開催県を代表して清水理事の中締めで閉宴となった。

翌日9日は、ホテルをバックに記念撮影後、静岡市久能山東照宮を参拝し、静岡駅近くの末廣鮨で昼食をとり、一路名古屋駅に向かい帰路についた。



平松会長



情報交換会



宿泊した「葛城北の丸」の前で

写真提供／食経